

### この夏ヨーロッパで感じたこと

美術・絵本評論家 ちひろ美術館常任顧問  
横浜美術大学客員教授  
松本 猛



この夏、コロナ禍の最中にドイツを中心にヨーロッパへ出かけた。日本画家で、日本の国民的画家とも言われる東山魁夷の若き日の調査のためである。魁夷は東京美術学校(現・東京芸術大学)を卒業したあと、1933年にドイツのベルリンへ留学している。この年、ドイツではヒトラーが政権をとり、日本では作家の小林多喜二が治安維持法によって逮捕され、拷問によって殺された。この



筆者が魁夷の絵を構成して作った絵本「白馬」(講談社)

ころの歴史年表を見ると、第二次世界大戦の足音が近づいているように見えるが、山田洋次監督の映画にもなった中島京子の直木賞作品「小さいうち」を読むと、一般の中流家庭ではごく平凡な日常が何事もないように続いている。魁夷より10歳年下の私の母、いわさきちひろの少女時代もピッタリこの時代に重なるのだが、岩崎家も平穏な暮らしの中にあり、ちひろは絵を描き、映画を見て、おしゃれをし、スポーツを楽しんでいる。

そのころベルリンの魁夷は、勉学の傍ら、学費や生活費を補填するために絵雑誌「コドモノクニ」や「少年倶楽部」に楽しい絵を描いて日本へ送っている。彼が日記のように日々の生活を記した家族への手紙にも時代の怖さはまったく感じられない。今回の調査でわかったことの一つは、魁夷がドイツに渡った1933年に彼の通ったベルリン大学(現・フンボルト大学)では、ナチスの学生たちが25000冊を上回る「非ドイツ的」な本を燃や



焚書が行われた大学前のベベル広場の記念碑。ガラス板の下に空っぽになった25000冊分の本棚が収められている。

す焚書事件を起こしたことだ。その中にはトーマス・マンやケストナーなどナチスに批判的な作家の本が含まれていた。これが、国家による検閲と文化支配のきっかけになる。魁夷がこのことを知らないはずはない。彼は、美術学校時代にトーマス・マンを愛読して、マンに憧れてドイツに留学したはずなのだ。ところがマンのことは一言も書いていない。また、同時期にベルリンにいた竹久夢二についても触れていない。夢二は「コドモノクニ」に執筆している先輩画家であり、接点がないはずはないのだが、夢二が自由主義や社会主義に近い考え方を持っていたからだろうか。

この夏、私が訪れたヨーロッパではウクライナでの戦争の影は表立っては見えなかった。もちろん、エネルギー供給や物価などに影響は出ているのだが、日々の生活は穏やかに見えた。おそらくウクライナでも、ロシアの侵攻が始まる直前まで平穏な生活があったはずだ。ロシアでは今も、戦場にいる兵士は別としても、多くの市民はさほど不自由を感じずに普段通りの生活をしているのではないだろうか。戦前の日本と同じように。

ロシアの人々のなかには、ベルリン時代の魁夷のように、あるいは、当時の多くの日本国民のように、いささかでも自分の身に禍がふりかかる可能性のあることには、一切口をつぐみ、ものを考えないようにしている人が多いのかもしれない。

民主主義というのは、人々が発言し続けなければその価値は消えてしまう。日本でも世界でも考えたことを議論し合うことが大切なのだろう。ドイツに住む友人が話してくれたことが忘れられない。ドイツの子どもたちは学校でも家庭でも、政治や社会について語りあう。そして早く選挙権を持って投票したいと思う子が多いということだ。

# 本と映画が私をつくった



石塚 幸男 (88歳・無職)

早熟な子どもだったなあ。家には色々な本がゴロゴロしていた。おふくろの「主婦之友」や「婦人之友」に載った小島政二郎の「人妻椿」や菊池寛の「真珠夫人」をこっそり見たのが読書体験のスタートだ。よく分からない箇所は子どもなりの想像力や好奇心を働かせた。ヒロインの過酷なめぐり逢いとハッピーエンドに同情したり、ほっとしたりした。

祖父の遺した新潮社の「世界文学全集」も好餌となった。〇〇の伏字もものかは、子どもの知恵で埋めていった。最も面白いと思ったのが、ポーランドの作家シェンキュピチの「クオーバデイス」(数回映画化)だった。貴族と王女の純愛を柱に暴君ネロの物語だ。教師になって、「先生のお薦めは」と問われれば必ずこの本を挙げることになる。

少年の志向は、山岡荘八の「徳川家康」、吉川英治の「三国志」へと向かう。「更級日記」の作者菅原孝標女が寝食を忘れ、几帳の陰で「源氏物語」を読んで己を「薄幸の美女」になぞらえる箇所があるが、私も家康になったり、張飛になったりした。

やがてアガサクリスティやエラリークイーンなどの推理物へと移っていく。一番怪しくないやつが犯人である。ずるいのは語り手が犯人のケースである。ドンデン返しに切歯扼腕したものだ。

部活動で明け暮れた中学や高校時代は学校の読書感想文提出で、一時読書嫌いになった。授業中、机の下の、回ってきた「エロ本」の盗み見のスリル感は懐かしい。家に帰ってから、その道の通の級友が貸してくれたあられもないヌード写真集には〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇。(これが伏字です。文字を入れてみましょう)

大学生になって、大学生らしく、阿部次郎の「三太郎の日記」や和辻哲郎の「古寺巡礼」など読んでみたまもの(「資本論」は途中で投げ出してしまう)、松本清張の魅力には敵わなかった。後年、「砂の器」の映画を観て、清張自身が語ったという、「わしの原作以上の出来栄えじゃわい」もむべなるかな、と思った。原作ではわずかしか書かれていない親子放浪のシーンは数分続き、涙を誘う。映画の「マディ

ソン郡の橋」の別れのシーンには不覚にも嗚咽してしまった。一部、原作にはない。本と映画の共生といえるだろう。

教師になってからの読書体験は無味乾燥そのものだった。教科書に載っているからである。それでも夏目漱石の「こころ」だけは一か月も掛けてやった。中島敦の「山月記」の難解極まる語彙や森鷗外の「舞姫」の古色蒼然たる文体には生徒に内心同情?を寄せながらも、強引に読み進めていった。これじゃ国語嫌い、読書嫌いになるのももっともだ、と痛感した。

退職後は乱読期になる。若い時は見向きもしなかったノンフィクションを読むようになった。お爺さんになると皆さん、同傾向になりがちだそう。なぜかは、この拙文をお読みの方たちのご想像に任せる。

なにに? 「ん!」だと、正解だ。

わが高校の先輩千田謙蔵氏の「ポポロ事件全史」は大冊だが、一気呵成だった。官憲との丁々発止はそんじょそらのエンターテインメントよりずっと面白いし、なによりも真実に迫ろうとする筆者の意欲と情熱は胸を打つ。

教え子にわが国装幀家の三指に入る人がいる。彼は老いたる旧師を慰めるべく、彼の手になる本を贈ってくれる。難しいやつは嫌だよという私の要望に応えて、時代物の文庫本が多い。読み終わったら、友人の別宅で週一回行う中国古典文化研究会と称している麻雀の会に送る。お礼にと手製の「山椒の実とちりめんじゃこの佃煮」を送ってくれた人がいた。本は得てして、読み終わると埃を被る運命?になりがちだが、これだと本も浮かばれよう。

私はその時々思いを人に知っていただきたく、またポケに防止にと、静岡新聞「ひろば」欄に投稿する。採用された時には図書券を送ってくれる。これを元手に一冊購入し、読み終わったら本棚に並べて「ひろば文庫」と名付け、ヤニ下がっている。もうだいぶ溜まった。一石二鳥どころか一石三鳥と言えるかも……。

世に雑学に強い人がいるが、大体が本好き・映画好きである。私がそうだと口が裂けても言わないが……。

# ある詩人からの贈り物



静岡図書館友の会副代表 高橋 醇子 

「人は言葉に救われることがある」 また、「ある物事が時空を超えて不思議に連鎖を起こすことがある」と。あなたはどんな体験をお持ちですか。最近出会った一端を記したい。

私事、昨秋9月に夫を見送った。本人の希望通り我が家からの平穏な旅立ちで、感謝の思いの中にも、心情は尽くせる言葉が見出せないまま、深淵なグリーフの日々を過ごしていた。すると、世に言う七七日の前日に、突然!素養のない三十一文字が降って来た。

「語りたき 声聞きたきこと今朝もあり 此処にあなたの不在が寂寥」

私は思わず「『寂寥!』私が欲しかったのはこの言葉だった!!」と呟き、心が少し凪ぐのを感じた。やがてそれが夫も熟知の詩の中の言葉だと気づき、その夜、初めて夫の夢を見た。

「道造の『のちのおもひに』を音に読む 『寂寥』という言葉いぶし銀のごと」

「道造の詩集に出会うは高校生 小<sup>ち</sup>さき書店の奥の一隅」

十代で出会った言葉に救われ、その後も短歌<sup>うた</sup>が降り続けるも頼りないグリーフワーク（悲嘆から立ち直るプロセス）の暮、24歳で早世した立原道造の一文に出会い心が震動した。

「……僕はこの詩集がそれを読んだ人たちに忘れられたころ、不意に何ものともわからないしらべとなって……心の底でうたふ奇蹟をねがふ。……僕をあこがれる歌の秘密なのだ。」（『立原道造全集3』）

詩人の詩への希み通りの体験を、正に人生最大のピンチの湖底でいただき、詩人と詩が身近に浮上した。そして死を予感する中で謳ったソネットたち

が死という悲哀から解き放たれて、今もなお生き生きと対話し響いていることに感慨深さがつづいた。

程なく、茨木のり子のある詩が読みたく詩集を開くと、挟んでいた新聞の切り抜き（2010.8）が目にとまった。かの詩人もご主人の逝去後、七七日の前夜、初めてご主人の夢を見て「夢」という詩が誕生し、「寂寥だけを道づれに歩いた」と記されていた。

そして今年4月、「知の巨人」と呼ばれた故立花隆（2021.4 逝去）が、高校1年の教科書で立原道造の詩と出会い、美しい日本語に電撃的なショックを受け、講演会で何度か話されていたと知り、少し調べた。詳しく記す紙幅はないが、「最後に書きたい本……とくに気がかりな2冊の中の1冊は立原で……彼について書きたい気持ちはずっとあります。」（『知の旅は終わらない』2020.1・『二十歳の君へ』2011.1）

立花隆なら、道造の詩や遺稿『長崎ノート』について、どんな切り口で著されたのだろうか……。氏旧蔵の道造関連書籍等（段ボール2箱分）は、昨秋、軽井沢高原文庫に寄贈された。

詩人立原道造は、東大建築学科を首席で卒業。1学年下に丹下健三も在籍。在学中から詩と建築双方で嘱望されていたという。近年、建築家としても見直され次々に本も刊行されている。東大横にあった記念館は閉館となり、自室の再現や自筆の詩（書家・石川九楊も大絶賛）に会えないのは残念だが、近ごろは時おり市立中央図書館2階の資料室で、窓一面の緑の梢を見ながら道造等の資料と向き合う。籠もりがちな今の私には秘密基地のよう。しらべのように降りてきた「ひとつの言葉」に誘<sup>いざな</sup>われ、いつの日かの再生を願ってグリーフワークを重ねたい初秋である。





## 山田健司さんを偲ぶ

運営委員一同

山田さんは今年 4 月 9 日、90 歳でご逝去されました。心より、ご冥福をお祈りいたします。

山田さんは静岡図書館友の会の副代表を会設立（2008 年 9 月）から 13 年余りの長きにわたりつとめられました。会の設立以前に静岡市立図書館の協議会委員として、図書館に対し数々の建設的な意見を述べられました。また故郷清水を深く愛し、旧清水市役所退職後は清水郷土史研究会会長、次郎長翁を知る会会長として活躍されました。

昨年の会報 26 号（9 月発行）では巻頭言「<sup>あまだ</sup> <sup>ぐあん</sup>天田愚庵の生き方と歌に学ぶ」の結びに「<sup>あまだ</sup> <sup>ぐあん</sup>天田愚庵が死去して 117 年になるが、生き方と歌からは学ぶべきものが多いように思えてならない」という言葉に山田さんの一生「学ぶ」という姿勢が表れています。

山田さんのお通夜の参会者に配布された「お世話になった皆様へ心から感謝申し上げます」というご家族からのお言葉をご紹介します。

「戦中戦後の激動の時代の中で、早くから働き家族を支えたという遠き日々。苦労は尽きなかったと思いますが、長男としての責任感が己を奮い立たせていたのかもしれない。汗水流して稼いだお金で暮らしを守り、きょうだいを学校に行かせ・・・人一倍努力を積みかさねてきました。

その分優しさにも溢れており、温和で真面目。持ち前の明るさで、いつも皆の心をぱっと明るく照らしてくれたものです。そんな人柄を周りの方にも大変親しんで頂き、多くのご縁に恵まれていました。市役所にてお世話になった皆様をはじめ、退職後も趣味を通じて沢山のご友人と出会い、様々な活動を楽しんでいた姿を思い出します。志を同じくするお仲間と集った会では会長も務めさせて頂き、充実した毎日を送っていました。皆様から愛され、そして家族にとっては誰より頼もしい「お父さん」としていつまでも心強い存在でいてくれました。正直に言えばまだまだ一緒にいたかったのですが、離れてしまっても心はひとつ。この先もずっと皆を見守っていてくれると信じております。

家族より」

私達は、十数年ほどの山田さんとのご縁でしたが、ご家族のこの言葉に、いつも笑顔で気さくに優しく接してこられ、少年のように心がまっすぐだった山田さんを懐かしく思い出します。

山田さん、静岡の図書館と静岡図書館友の会の発展を、いつまでも見守って下さいますように。

合掌。



## スターウォーズと本当の戦争

学校図書館を考える会・静岡 朝倉 久美子

「遠い昔、はるか彼方の銀河系で・・・」映画館の暗闇の中で、このオープニングクロールが宇宙の彼方に流れていく映像にどれだけワクワクしたことだろう。「スター・ウォーズ エピソード 4 / 新たなる希望」(1977 年) 以来毎回公開を楽しみに 45 年! (書いてびっくり!)

中でも私のピークは 2002 FIFA ワールドカップ 日韓共同開催の前夜、七間町オリオン座で夜 11 時頃から先行上映があると聞き、当時中学生だった次男と出かけた晩だ。「保護者同伴であっても 11 時以降の上映はご覧いただけません」も軽くスルーし、館内に入るとそこはビール片手の外国人がやけに多い。そうか、明日エコパにサッカー観戦に行く人達だ! と納得。国際的な雰囲気の中で開演を待つ。「LUCAS FILM」のロゴが映し出された途端方々から指笛! 乗りの良い、字幕を必要としない人々と観た楽しい思い出の「エピソード 2 / クローンの攻撃」は、青年となったアナキンとアミダラの恋の物語でもあった。

スターウォーズはスペースオペラ、完全な絵空事だから面白かった。キャラクターも人類、ウーキー、魚類的宇宙人、爬虫類的宇宙人などなど生物多様性のるつぼのよう。(ちなみに私の 1 番好きなのはチューバッカ! 2 番目は悪役ながらジャバ・ザ・ハット! ユアン・マクレガーのオビ=ワンが 3 番目かな)

なにか嫌な感じがし始めたのは「エピソード 1 / ファントム・メナス」(1999 年公開) あたりからだろうか。これは湾岸戦争のアメリカ軍の攻撃じゃないか! と、急に現実味を帯びてしまった。「遠

い昔、はるか彼方の銀河系の」おとぎ話ではなくなってしまった。その後も世界のあちこちで戦争は続き、高性能の兵器は益々スター・ウォーズ的になり、ワクワク感は半減していった。それでも観続けたファンではあるが・・・。今はディズニープラスで、「オビ=ワン・ケノービ」6 話配信中だそう。エピソード 3 から 10 年後のダース・ベイダーとオビ=ワンをヘイデン・クリステンセンとユアン・マクレガーが演じているという。これは見たい!

それにしてもだ。21 世紀になって、こんな領地拡大のための本当の侵略戦争をリアルタイムで見る時が来るなんて、思ってもみなかった。武器は高性能、映像もクリア、でもやってることはめっちゃめっちゃ原始的な戦争だ。もう悲惨な映像、泣き悲しむ人々を見たくない。どうしたら戦争を終わらせることができるのだろう。世界中の人がそう思っているのに終わりはまだ見えない。フォースとともにあらんことを祈るばかりだ。

7 月 7 日朝日新聞「言葉季評」にこんな短歌が載っていた。

「戦争を始めた人が飼っているおれの故郷のうつくしい犬」神丘風

(\*2 月 24 日、侵攻開始の当日にツイッターに投稿され広く拡散されたという)



大雪山にて筆者  
2022年7月

# 国立国会図書館 デジタルコレクションと 青空文庫

静岡図書館友の会運営委員  
佐久間 美紀子



公共図書館の電子書籍導入が増えている、というニュースをお聞きになったことがあるでしょう。ここで言われている電子書籍は、紙の本と同じく出版社が販売するもので、図書館は出版社から購入して利用者に提供する形になります。でも、それとは性質の違う電子版の本があるのです。

パブリックドメインという言葉をご存じでしょうか。これは私有に対する公有という意味で、著作権が切れた作品のように誰にでも自由に使えるものを指します。このパブリックドメインを使った、商業出版とは違う形の電子サービスの二つの雄が国立国会図書館デジタルコレクションと青空文庫で、今回はこの二つを紹介します。

国立国会図書館のデジタルコレクションには、明治以降の図書 128 万点、雑誌 135 万点、古典籍 9 万点など、膨大な資料が収録されています。このうち、著作権の切れたものは誰でもネットから自由に読めます。また、著作権の期限内のものは非公開でしたが、今年になってから、絶版等で入手困難なものは利用登録すれば個人でも自宅で読めるようになりました。ここでの公開がきっかけとなって再販されればまた非公開となるのですが、そうならばデジタルコレクションには、忘れられた資料の発掘という意義も出てくるでしょう。

このコレクションはページをスキャンした画像なので、装丁や挿絵・活字をそのまま見ることができます。たとえば明治 34 年に出版された与謝野晶子の『みだれ髪』は、こんな表紙をしていました。

文学作品だけではなくありません。目録を見ていくと、たとえば『柏崎刈羽原子炉設置変更許可申請書』などという資料がありました。調査研究をするにあたって、こうした資料が自宅にいながら読める、という状況



国立国会図書館ウェブサイトより転載

がどんなに便利か、想像がつくでしょう。また、プランケ文庫には占領下の静岡を知ることができる資料がいくつも収録されています。

いっぽうの青空文庫は、パブリックドメインとなった作品をテキスト化して公開しています。一文字一文字、手作業で入力していくのも、そしてそれを校閲するのも、すべての作業をボランティアが担っています。公開に必要なサイト運営費用なども寄付でまかなっているようで、文字通り市民公有事業と言えるでしょう。



青空文庫ウェブサイトより転載

特筆すべきことに、収録作品 17,116 点のうち著作権の切れていないものが 382 点あるのです。意義を感じた著者またはその遺族が、自由に読んでもらってかまわない、と提供したものです。2022 年になってから公開された作品には、『天狗岩の殺人魔』（山本周五郎）『狸とムジナ』（柳田国男）『魔術師』（江戸川乱歩）『最後の事件』（コナン・ドイル 大久保ゆう訳）などという作品があがっていました。

コロナによる外出自粛期間には、いつも 1 日 8～11 万回のアクセスだったものが 10～20 万回と倍増したとのこと。また今年になってからは、「鎌倉殿の 13 人」の影響で太宰治『右大臣実朝』や吉川英治『源頼朝』がアクセスランクイン。菊池寛『マスク』という、100 年前にスペイン風邪が流行した時のことを描いた作品も読まれているようです。

しずともでは、これからの図書館を考えるのに資料の電子化や電子書籍の問題が避けて通れないと考えて、今後もメリット・デメリットについて勉強会を続けていく予定です。

国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/>  
青空文庫 <https://www.aozora.gr.jp/>

## 図書館からこんにちは 絵本との再会



私は、今年4月より中央図書館に配属され、児童サービスに携わることになりました。日常的に絵本に触れるのは、自分の幼少期以来約20年ぶりのことでした。しかし、当時繰り返し読んでいた絵本を手にとると、つい最近読んだばかりのように、描かれている絵の記憶がよみがえってきました。絵を見ると、お気に入りだった箇所や物語にわくわくした気持ちまで思い出されました。私はそういった絵本に再会するたびに、うれしさと懐かしさで胸がいっぱいになります。

家族に絵本を読み聞かせしてもらったことや、自分で絵本を読んだことは今ではほとんど覚えていませ

静岡市立中央図書館 主事 小林 涼香

ん。ですが、表面的には読んだ記憶を忘れてしまっても、その経験はずっとその人の中には残っているのだと感じました。

児童サービス担当には、ブックスタート事業やハローベビー事業など、保護者の方に絵本や読み聞かせについて伝える機会が数多くあります。まだ図書館員としての経験は浅いですが、自分の実体験も交えながら、絵本との触れ合いは子供にとってかけがえのない経験になりうることを伝えていきたいです。



Designed by Freepik

## 市内図書館ニュース

### 「南部図書館 ありがとう開館30周年」記念事業について

静岡市立南部図書館 館長 佐藤 由乃

南部図書館は令和4年7月、開館30周年を迎えました。7月に開催した記念イベントと今後の予定についてご紹介します。

#### 駿河区応援隊長トロベアの1日図書館見学 7月20日開催

駿河区応援隊長トロベアが来館し、おはなし会への参加、開架やOPAC、書庫や2階のホールを見学、ツイッターで発信しました。

トロベアには、記念に図書館カードを発行し図書を出しました。多くの来館者に喜んでいただきました。



#### キャラクターの作成と「にゃん・ぶー」フォトスポットの設置 期間：7月20日～8月23日

「南部（なんぶ）」の名前から発想を得て、「にゃん」（猫）と「ぶー」（豚）のキャラクターを考え、職員がイラストを作成し完成！お披露目の機会として、図書館入口に「フォトスポット」を設置しました。今後幅広く活用していく予定です。

ぶー



にゃん



また、「駿河トロベア Week2022」開催期間中の10月10日（月・祝）、市内在住の児童文学作家大原興三郎氏の講演会や、秋の読書週間にあわせ、しおりの作成・配布等を予定しています。皆様のご来館をお待ちしています。



## しずとしょフェスタ 2022 『あいうえあそぼうとしょかんで』

日にち:10月23日(日)

場所:静岡市立中央図書館

- ① おはなし会 10:00～
- ② スギヤマカナヨ氏による講演会「絵本でひろがる世界」 10:00～11:30
- ③ スギヤマカナヨ氏ワークショップ(子ども向け)  
「すきな本をカルタにしよう」 13:30～15:00
- ④ 『あいうえあそぼうとしょかんで』原画展  
期間:9月29日(木)～11月3日(木・祝)  
場所:静岡市立中央図書館玄関展示コーナー
- ⑤ 図書館ツアー 15:00～/16:00～
- ⑥ デイジー図書視聴体験 10:00～
- ⑦ スタンプラリー(子ども向け) 10:00～16:00

※新型コロナ感染状況により変更の可能性があります。

● 詳しくは、チラシをご覧ください。



## 2023年度総会・松本猛氏記念講演会

日にち:2023年3月4日(土)

場所:静岡県総合研修所 もくせい会館 富士ホール

### 松本猛氏プロフィール

1951年生まれ。美術・絵本評論家、作家、横浜美術大学客員教授、ちひろ美術館常任顧問、美術評論家連盟会員、日本ペンクラブ会員。1977年にちひろ美術館・東京、97年に安曇野ちひろ美術館を設立。同館館長、長野県信濃美術館・東山魁夷館(現・長野県立美術館)館長、絵本学会会長を歴任。

著書『いわさきちひろ 子どもへの愛に生きて』『母ちひろのぬくもり』(講談社)、『「戦火のなかの子どもたち」物語』(岩崎書店)、『安曇野ちひろ美術館をつくったわけ』(新日本出版社)、『東山魁夷と旅するドイツ・オーストリア』(日経新聞出版社)、絵本に『ふくしまからきた子』『ふくしまからきた子 そつぎょう』(絵・松本春野 岩崎書店)、『白い馬』(絵・東山魁夷 講談社)、『りんご畑の12ヶ月』(絵・中武秀光 講談社)、『海底電車』(絵・松森清昭 童心社)など。

● 詳細が決定しましたら、会員の皆様にはお知らせし、当会HPに掲載いたします。

静岡図書館友の会会報 No.28 2022.9  
静岡図書館友の会 代表 田中文雄  
Eメール: sizutomo2008@yahoo.co.jp  
HP: <http://shizutomo.sakura.ne.jp/>  
会員数: 202人 (2022年8月現在)

### 編集後記

なんとなく違和感が、とっていたら、とうとうある朝、本格的に腰を痛めてしまいました。この暑い夏のコルセット生活はなかなかきついものでした。お医者さんからは、適度な運動を、とのこと。今年こそは、適度な「スポーツの秋」にしよう、と思っています。(Y)